

## 2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (民事訴訟法)

---

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。

(設例)

Xは、駐車場として現在Yが使用している甲土地を、その所有者であるAから買い受けたと主張し、Yに対し、所有権に基づき甲土地の明渡しを求める訴えを提起した(以下「本件訴訟」という。)

本件訴訟の第1回口頭弁論期日において、Yは、AとXとの間の甲土地の売買契約締結の事実を認める旨の陳述をした。この陳述を踏まえて、裁判所が和解の勧告をしたところ、次回期日において、Xは、甲土地の所有権侵害を理由として賃料相当損害金の支払いを求める請求を本件訴訟に追加した。

問(1) (配点:10点)

本件訴訟の訴訟物をすべて挙げ、それぞれの請求原因事実について、説明しなさい。

問(2) (配点:20点)

下線部のYの陳述に裁判上の自白が成立するか、説明しなさい。仮に成立するとした場合、Yは、どのようなときに下線部の陳述を撤回することができるか、説明しなさい。

問(3) (配点:20点)

仮に、下線部が「甲土地がXの所有に属することを認める旨の陳述」であった場合、この陳述に裁判上の自白が成立するか、説明しなさい。仮に成立するとした場合、Yは、どのようなときにこの陳述を撤回することができるか、説明しなさい。